

「千羽鶴」ご協力のお礼

【詳細】市民活動課 25・6012



本誌4月号で募集した千羽鶴に、多くの方からご協力をいただきました。集まった約42万羽の千羽鶴は、長崎原爆資料館の他、青少年平和大使が平和祈念式典の会場に届けました。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

「長崎への派遣を通じて」
 明星中学校2年生 田中虹杏さん
 「ドーン」長崎市に爆音と熱風が広がった、一九四五年八月九日午前十一時二分、原子爆弾が投下されました。
 長崎原爆資料館で特に印象に残ったのは、柱時計です。その時計の針は原子爆弾の投下された午前十一時二分を指し、七十七年前のあの日、時が止まっていました。実際には見たことのないはずの私の頭に原爆投下時の様子がはつきりと思い浮かびました。すごく不思議な感覚でその時に私は初めて、実際の資料を見て初めて伝わることもあるんだと身を持って感じました。
 私はこの派遣で教科書や、学校の授業では学びきれない戦争の悲惨さや平和の尊さを学びました。同時に、「改めまして戦争は二度とあってはいけません」と強く思いました。そして、今、毎日楽しく生活できているのも当たり前ではなく幸せなことだと実感したので、今の生活に感謝して過ごしたいと思います。



青少年平和大使が長崎を訪問しました
 青少年平和大使に選ばれた中学生2人が、長崎市で開催された青少年ピースフォーラムと平和祈念式典に出席しました。感想文を紹介します。

「長崎を最後の被爆地に」
 六合中学校3年生 菅原幸倫さん
 「落下傘だ」と指さす人々の頭上約五〇〇メートルに突如小さな太陽ができた。鉄の溶ける一六〇〇度を遥かに超えた約四〇〇〇度のそれは地上の人々や建物を焼いた。今も、黒焦げになった死体の写真や溶けてくっついた瓶など当時の熱を物語る証拠が残されている。また、その時の爆風により重い煉瓦がずれた跡が、浦上天主堂の遺壁に今もある。
 私が長崎で原爆について学習し、最も印象に残った話は、「広島が最初の被爆地だ」というのはこれからは変わらないが、長崎が最後の被爆地ということが変わるかもしれない。どうか、長崎を最後の被爆地にしてください。」という話です。
 私達は二つ目の被爆地を生み出さず、長崎が最後の被爆地であるという事実を変えないために、平和主義と核廃絶を世界に訴える必要があると考えました。

福祉除雪サービススノーサポート隊を募集

除雪の支援を受けたい方が、支援したい方（スノーサポート隊）に有償ボランティアでの除雪作業をお願いする、地域の相互支援活動です。スノーサポート隊は、15cm程度の降雪があった日に、自力での除雪が困難な高齢者世帯等の住宅に出向き、玄関から公道までを除雪します。一部の地域で同隊員が不足していますので、協力していただける方は、ご連絡ください。また、同隊の事業説明会を開催します。興味のある方は、お問い合わせください。

【申込・詳細】旭川市社会福祉協議会 90・1449

スノーサポート隊 事業説明会
 とき 10/28(金) 14:00~15:30
 ところ ときわ市民ホール (5の4)

地域での除雪支援活動協力団体を募集

自力での除雪が困難な世帯の住宅敷地入口部分の除雪をしていただけるボランティアグループや学校、企業、町内会等の団体を募集しています。出動は1シーズン10回前後で、1世帯当たり5,500~8,300円の協力費を支給します。詳細は、お問い合わせください。

【詳細】長寿社会課 25・6457

11/1(火)

旭川まちなかしごとプラザ 移転のお知らせ

NEW!
フィール旭川2階 (1の8)

同プラザでは、多様な就職支援サービスをワンストップで無料提供しています。

開設時間 10:30~19:00

※各窓口により異なる場合があります。

【詳細】経済総務課 25・7152

令和4年度

旭川市貢献賞を贈呈

旭川市の社会の発展や産業の振興に長年にわたって貢献し、その功績が特に顕著な方に贈る賞です。

旭川市社会貢献賞

村山元保さん
 旭川中地区納税貯蓄組合連合会副会長等を歴任し、納税の推進に貢献



旭川市産業貢献賞

川島崇則さん
 旭川建設業協会会長等を歴任し、建設業の振興と発展に貢献



外山弘美さん
 東和土地改良区理事長等を歴任し、地域農業の振興と発展に貢献



中村彰利さん
 あさひかわ商工会会長等を歴任し、商工業の振興と発展に貢献



渡辺直行さん
 旭川家具工業協同組合代表理事等を歴任し、工業の振興と発展に貢献



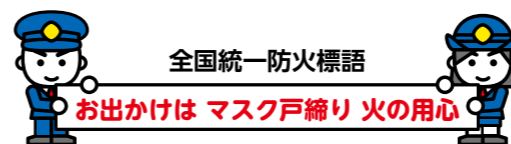
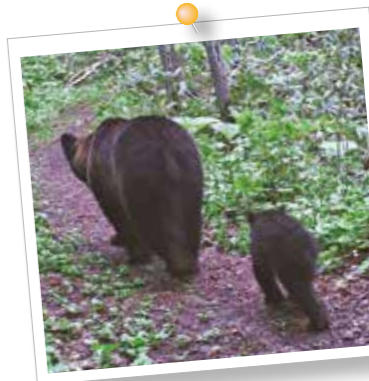
【詳細】秘書課 25・5306

ヒグマフォーラム in 旭川



内容 野生動物の専門家が、旭川や札幌の市街地でのヒグマ出現状況をデータや事例で解説し、今後の対策を提言
 とき 11/19(土) 13:00~17:00
 ところ CoCoDe (宮前1の3)
 定員 160人
 講師 北海道大学教授 坪田敏男さん、

北海道立総合研究機構 釣賀一二三さん、酪農学園大学教授 佐藤喜和さん、旭山動物園園長 坂東元さん ほか
【申込】 11/11(金)までに
 右のフォームから、または環境総務課 25・5350、29・3977



全国統一防火標語

お出かけは マスク戸締り 火の用心

10月15日~31日 全道 秋の火災予防運動

秋から冬は、暖房器具の使用等により火災が多く発生する季節です。火災予防意識の向上を図るため、毎年この期間中、全道一斉に火災予防運動を実施しています。

おうち時間が増えている今こそ 家族で火災予防の準備を!

- 火災予防や消火器の置き場所・使い方を家族で話し合う
- 家庭内での避難方法を複数決めておく
- 日頃から近所と連携した協力体制をつくる

【詳細】火災予防運動に関することは 消防本部予防指導課 25・1123



住宅火災から命を守るために 住宅用火災警報器の確認をしましょう

- 設置場所を確認! → 各寝室に(2階以上で就寝する場合は階段室にも)設置
- 定期点検を実施! → 定期的(3~6か月ごと)に、点検ボタンや点検ひもを使用して点検
- 交換時期を確認! → 住宅用火災警報器の寿命は、約10年



定期的な点検をしよう

